

■第9回日本放射光学会功労報賞報告

山本安一氏（立命館大学 SR センター）

小島一男（立命館大学 SR センター）

この度、2022年1月7日の第35回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムにおいて、立命館大学 SR センター技術担当課長の山本安一（やまもとやすかず）氏が、第9回日本放射光学会功労報賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。多くの会員の皆様からのご推薦に深謝し、ここに山本氏の略歴と業績を紹介させていただきます。

なお、山本氏は諸事情により1月7日当日、欠席されることになったため、横山会長・小嗣組織委員長のご配慮により、立命館大学において同氏に賞状と花束の代理授与を前もって行い（写真）、その報告を日本放射光学会にさせていただきました。

山本安一氏は、1995年3月に立命館大学大学院理工学研究科博士課程前期課程を修了し、4月より立命館大学に着任され（立命館大学 SR センター利用運転開始1年前）、以来26年間、同センターの技術担当職員および同課長として、光源の安定運転と光源スタッフ（契約職員・派遣職員等）の教育、並びに学生・若手研究者・企業関係者を含む幅広い放射光利用者の安全教育と利用支援に従事してこられました。なお、本務の傍ら、大学院のときのイオン散乱の研究を継続・発展させて、2002年3月に博士（理学、立命館大学）の学位を取得されました。同氏は、日本放射光学会、日本物理学会、および日本加速器学会に所属しておられます。

SR センターの光源は、入射器マイクロトロンと世界唯一のコンパクトな超伝導電子蓄積リング AURORA になります。そのデザインのユニークさ故に、とりわけ、一体型の超伝導電磁石を用いているために、瞬間停電への対策など、その運転と維持に関して他施設にはない作業と注意深い操作が要求されます。山本氏を中心にした数名のスタッフが、このような光源を26年の長きに亘り、長期シャットダウンもなく利用運転に提供してこられました。現

在も他施設に比肩する性能を維持しており、これまでの運転年数から考えれば驚異的な長寿施設となっております。これには、常にトラブルを事前に察知し、きめ細かく対処してきた同氏の貢献が極めて大であります。

山本氏は、この間、ヘリウム液化機（1998年2月高圧ガス製造保安責任者の資格取得）や高周波制御部並びにそれらの制御システムの改良を施し、電子ビームエミッタンスを制御することによって長寿命運転を達成するなど、利用者のニーズに的確に対応した光源運転に尽力してこられました。また、小型放射光光源であることの利点を最大限に活かす X 線ビームライン（BL-3, BL-10, BL-13）ミラー系の設計に加え、AURORA リング内にミラーを直接導入することによる高光子束赤外ビームライン（BL-15）の設計にも貢献がありました。SR センターにおける安全な利用環境を維持するために放射線取扱主任者（2004年1月資格取得）としての業務を担当し、利用者の安全確保と利便性を両立する山本氏の献身的で行き届いた管理業務が、立命館大学 SR センター独自の放射光利用研究を支えてきたと言えます。

「ありがとうございます。大変に光栄です。ご利用くださいました皆様、ご指導くださいました先生方、スタッフならびに関係企業の皆様に厚く御礼申し上げます。1996年の利用運転開始時より放射光利用に携わってまいりましたが、ご迷惑をおかけすることが多く常々反省しておりますところですが、今回の受賞を励みとして、少しでもより良い支援を行えるよう精進して参ります。」これは同氏の受賞に際してのメッセージであります。

第9回功労報賞のご受賞を心よりお慶び申し上げますとともに、山本安一氏には今後とも放射光科学技術分野においてご尽力をお願いしたいと思っております。

この度は、誠にありがとうございます。

